

第8回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2009年3月3日（火）10：30～11：10

2. 場 所 中央合同庁舎4号館10階 1015会議室

3. 出席者 原子力委員会

近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、広瀬委員、伊藤委員
内閣府

土橋参事官、浏览企画官、牧参事官補佐、横尾参事官補佐、
千葉参事官補佐

4. 議 題

- (1) 独立行政法人日本原子力研究開発機構東海研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更〔放射性廃棄物処理場、JRR-3原子炉施設、JRR-4原子炉施設、NSRR原子炉施設及びSTACY（定常臨界実験装置）施設の変更〕について（答申）
- (2) 株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンにおける核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）
- (3) FNCAコーディネーター会合の開催について
- (4) 「市民参加懇談会 in 鹿児島」の開催結果について
- (5) その他

5. 配付資料

- (1-1) 独立行政法人日本原子力研究開発機構東海研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更〔放射性廃棄物処理場、JRR-3原子炉施設、JRR-4原子炉施設、NSRR原子炉施設及びSTACY（定常臨界実験装置）施設の変更〕について（答申）（案）
- (1-2) 独立行政法人日本原子力研究開発機構東海研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更〔放射性廃棄物処理場、JRR-3原子炉施設、JRR-

4 原子炉施設、NSRR 原子炉施設、STACY（定常臨界実験装置）施設の変更] の概要について

- (2-1) 株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンにおける核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）（案）
- (2-2) 株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン加工事業変更許可申請の概要について
- (3) 第10回アジア原子力協力フォーラム（FNCA）コーディネーター会合開催について
- (4) 「原子力委員会 市民参加懇談会 i n 鹿児島」の概要
- (5) 第4回原子力委員会定例会議議事録
- (6) 第5回原子力委員会定例会議議事録
- (7) 原子力委員会 政策評価部会（第30回）「エネルギー利用」（第5回）の開催について
- (8) 原子力委員会 研究開発専門部会（第8回）の開催について
- (9) 「原子力委員会政策評価部会 ご意見を聴く会」への参加者の募集について

6. 審議事項

(近藤委員長) おはようございます。第8回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

本日の議題は、一つ目が、独立行政法人日本原子力研究開発機構東海研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更についての答申案を審議すること。二つ目が、株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンにおける核燃料物質の加工の事業の変更許可について、これも答申案を審議すること。三つ目が、FNCAコーディネーター会合の開催について御報告いただくこと。四つ目が、「市民参加懇談会 in 鹿児島」の開催結果について御報告をいただくこと。五つ目、その他となっています。よろしくお願いいたします。

それでは、最初の議題、お願いします。

- (1) 独立行政法人日本原子力研究開発機構東海研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更〔放射性廃棄物処理場、JRR-3原子炉施設、JRR-4原子炉施設、NSRR原子炉施設及びSTACY（定常臨界実験装置）施設の変更〕について（答申）

(土橋参事官) 最初の議題、原子力機構の原子炉の設置変更についてですが、千葉補佐から御説明をさせていただきます。

(千葉参事官補佐) では、お手元にございます資料1に基づきまして御説明させていただきます。

本件は、平成20年7月に独立行政法人日本原子力研究開発機構から文部省に提出されました東海原子力研究開発センター原子力科学研究所の原子炉の設置変更につきまして審査されたものでございまして、平成20年11月19日付をもちまして文部科学省から原子力委員会に諮問があった件でございます。

中身でございますけれども、東海原子力研究開発センターのJRR-3とJRR-4、NSRR、STACYについての変更でございます。変更の中身につきましては、まず放射性廃棄物処理場につきまして、廃棄物の分別を廃棄物からの試料採取が容易になるように構造を一部変更するというものでございます。二つ目が、NSRRにつきまして、原子力分野の人材育成のために使用の目的に教育訓練を加えるというものでございます。三つ目、STACYですけれども、これにつきましては使用済燃料の貯蔵のための設備を一部増強するとい

うものでございます。それから J R R - 3 と J R R - 4 につきましては、使用済燃料の処分について現行の記載を一部変更いたしまして、使用済燃料をすべて米国に引き渡すということ、それから引き渡すまでの間、きちんと貯蔵するということで、記載を変えるというものでございます。

当委員会といたしまして、本件につきまして審査いたしますのは、平和利用と計画的遂行、経理的基礎という観点でございます。

まず一つ、平和利用につきましては、これらの変更すべて平和の目的に沿って利用されるということで、文部科学省の出しました判断というものは妥当であると判断いたしました。

次に、計画的遂行でございますけれども、これにつきましても我が国で定めております原子力政策大綱で定めております内容から逸脱するものではなくて、問題はないと考えてございます。

経理的基礎につきましては、改装するための工事等につきまして、文部科学省のほうで予算を要求しております独立行政法人原子力研究開発機構の運営費交付金の中で充当するという計画になってございまして、これについても問題ないと判断してございます。

以上でございます。

(近藤委員長) ありがとうございます。

なお、議題の本旨は、ただ今説明されたところが適切かどうか、そうだと担当大臣の諮問に対して資料の最初のページにある文章を返すことはいかがかということですが、御意見をどうぞ。こういうことでよろしゅうございますか。

どうぞ、広瀬委員。

(広瀬委員) どうしてこんなに時間が掛っているのですか。

(千葉参事官補佐) こちらに諮問がくると同時に安全委員会にも諮問がいきます。で、安全委員会では安全審査をやってきてございます。この審査に時間が係って、ようやく終了するというご連絡をいただいたので、今回、この議題のご審議をお願いした次第でございます。

(広瀬委員) 最初に出したのは7月でしょう。

(千葉参事官補佐) 11月に原子力委員会と安全委員会に諮問されてます。

(広瀬委員) このような場合、先にこちらが出すというのはだめなのでしょうか。なるべくこういうものは迅速に処理したほうがいいと思います。たとえこちらだけだとしても、わざわざ遅らせる必要はないと思います。

(近藤委員長) これまでは、安全委員会の審議終了に合わせてこちらの答申を出すようにして

いるわけです。私どもがさっさと答申を先に出しても構わないとは思いますが、安全委員会の審議中に補正申請が行われると、我々の審議をやり直す必要性が生じる可能性があります。可能性は低いからかまわないとは思いますが、急いでやることでもないので、適当なタイミングでやるということだと思います。しばらく積んでおくと、諮問内容の説明を忘れてしまうという問題があることはあるのですが。

大事なことは、許可申請があってから許可処分に至るまでの時間が行政側の理由で長くなることは極力避けるべきだということ。このことは行政当局に対して常々申し上げているところです。このことについては、引き続き注意を喚起していきたいと思います。

それでは、本件に関しましてはこの文章で文部科学大臣宛に答申をさせていただくこと、よろしゅうございますね。はい、それではそのようにさせていただきます。

それでは、次。

(2) 株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンにおける核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）

(土橋参事官) 2番目の議題は、株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンの核燃料物質の加工の事業の変更許可についての答申でございます。これにつきましても千葉補佐から御説明をさせていただきます。

(千葉参事官補佐) 本件は昨年4月に、株式会社グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパンから経済産業省に出されました核燃料物質の加工の事業の変更許可についてでございます。経済産業省から原子力委員会には、昨年の12月に諮問がされた案件でございます。

本件の変更の内容でございますけれども、まず、加工施設の中にあります被覆施設、これの乾燥装置を撤去するという工程の変更でございます。二つ目といたしまして、貯蔵施設の最大貯蔵能力の変更ということで、燃料集合体の貯蔵容器につきまして若干増加を行いまして、最大貯蔵能力が増えるという変更が行われてございます。三つ目ですけれども、廃棄施設の変更ということで、第1加工棟、第2加工棟の気体廃棄物の廃棄設備の一部の系統を変えるというもの。それと、第1加工棟の廃棄施設におけます固体廃棄物の保管能力、これを増強してございます。それから液体廃棄物の廃棄設備の保管場所の明確化と、あと廃油処理施設につきまして、これも実験設備から廃棄施設に区分を変更するというものでございます。

本件につきまして、当委員会で審査していただく内容につきましては、加工能力について

の箇所と経理的基礎につきましてでございます。加工能力につきましてですけれども、加工事業の能力そのものを変更するものではございません。ですので、加工事業者といたしまして加工の能力が核燃料物質の需要に比べまして著しく過大になるということはございません。そういう判断を経済産業省で判断しておりますけれども、その判断は妥当なものと判断いたしました。次に、経理的基礎でございますけれども、これにつきましては本件につきましてはすべて自己資金を用いて事業を行うということでございまして、これにつきましても経理的基礎について問題ないと判断いたしました経済産業省の判断というものは妥当であると考えてございます。

以上でございます。

(近藤委員長) ありがとうございます。

本件も、御説明のような次第で、1ページにあるように大臣あて答申することにしたという提案です。御意見をお願いします。いかがでございましょうか。よろしゅうございますか。

それでは、この文章で答申させていただきます。ありがとうございます。

では、次の議題。

(3) F N C Aコーディネーター会合の開催について

(土橋参事官) 3番目の議題は、来週行われますF N C Aコーディネーター会合の開催についてでございます。横尾補佐から御説明をさせていただきます。

(横尾参事官補佐) 資料第3号で説明させていただきます。

アジア原子力フォーラム、F N C Aと呼んでおりますが、これはアジア地域での原子力の平和利用を促進して、参加各国の発展に貢献しようということで、平成11年からやっております。F N C Aでは、大臣級会合で政策的な対話をしたり、いろいろな問題について討議するパネル会合を行ったり、また主に放射線の利用について研究プロジェクト、8分野11プロジェクトをやっております。この進め方について、各国1人コーディネーターという方を指名しておりまして、その方々で検討していただくということになっております。来週、このコーディネーターの方々が集まる会合を開催いたします。

そのテーマですが、大臣級会合やパネル会合を実際に昨年開いたものについての結果をもとに、今後の進め方を討議するというものです。その下に1番から順番をつけましたが、主

催は内閣府原子力委員会と、それから研究プロジェクトを主に進めております文部科学省です。来週の３月１１日、水曜日から、１３日、金曜日の午前中まで２日半、三田の共用会議所で行います。

参加国は、アジアの９カ国にオーストラリアが入って１０カ国、それに今回はＩＡＥＡからオブザーバー参加があります。日本からは近藤委員長を初め原子力委員会の方々、町コーディネーター、関係省庁から出席いたします。

次のページに、概要になりますが、会合のプログラムを書いております。３月１１日は先ほど申しましたような大臣級会合の報告やパネル会合の報告、それに基づきまして、セッション３で、今後原子力発電の基盤整備に関して検討するパネルを行おうということ。それから、原子力発電をＣＤＭに入れるという方向で活動していこうと。そういうような今後の活動について検討を行います。

３月１２日、２日目は研究プロジェクトのレビューと、今後の進め方について１日討議をいたします。

３月１３日は、参加の各国で行われております人材育成のいろいろなプログラムについて情報を共有するためのデータベースを現在作っておりまして、この４月から共用する予定ですが、その状況を報告いたします。そして、全体的な今後の計画について議論して、会議を終わるという予定になっております。

次のページから３ページは各国及び国内からの参加者リストとなっております。

以上です。

（近藤委員長）御説明、ありがとうございました。

御質問御意見をどうぞ。

（広瀬委員）これ初日はセッション１から３までの時間帯は午後ですか。

（横尾参事官補佐）失礼しました。開会とセッション１までが午前中でして、２と３の（１）、（２）が午後になります。

申しおくれましたが、開会のセッションの部分だけはプレスの方々に入っていただいて取材していただくということにしようと思っております。

（近藤委員長）感想ですが、コーディネータ会合の議題がこれだけ原子力発電指向になってきているのに、FNCAのコアの活動である協力プロジェクトに原子力発電に関係するものがないのはバランスが悪いですね。転換期にあるということなのでしょうけれども。

（土橋参事官）そうですね。御承知のとおり、これまで放射線利用でプロジェクトを組んでき

たので、今委員長おっしゃったとおり、こういうパネルを通じて議論していただいて、ほかの I A E A の枠組みとか G N E P とかいろいろございますけれども、全体の中で、プロジェクトと言えるかどうか分かりませんが、強力な枠組みを何か構築できればと思っております。

(近藤委員長) そういうことも議論するのがこの場なのでしょうね。

(横尾参事官補佐) そうだと思います。

(近藤委員長) ありがとうございます。委員におかれては、御都合のつく限り御参加いただければと思います。ありがとうございます。

それでは、次の議題。

(4) 「市民参加懇談会 i n 鹿児島」の開催結果について

(土橋参事官) 4 番目の議題は、2 月 1 5 日に開催いたしました市民参加懇談会の開催結果でございます。牧補佐から説明をさせていただきます。

(牧参事官補佐) 資料第 4 号でございます。先日 2 月 1 5 日、鹿児島市内のブルーウェーブイン鹿児島というところ、天文館という鹿児島市内のにぎやかなところの近くにあるホテルですけれども、そちらの会場で開催したものでございます。

テーマは、原子力～知りたい情報は届いていますか～「地球温暖化と原子力」というものでございます。

出席者としたしましては、5 名の方に意見発表をお願いしました。こちらのリストに載っている方々です。それから、市民参加懇談会の委員が 6 名、原子力委員からもオブザーバーとして田中委員長代理と松田委員に御出席いただきました。

参加者としては 5 7 名、というとはほかの市民参加懇談会に比べると若干少ないのですが、プレス関係者の方が 7 社。それからテレビカメラもたくさん来られまして、そういう意味ではにぎやかな感じになったかなと思っております。

概要ですけれども、第 1 部として、まず最初に専門委員の出光委員から、地球温暖化と原子力に関する基礎的な情報について簡単に御紹介していただき、その後 5 名の御意見発表者から意見伺いまして、専門委員との質疑を行いました。

第 2 部としては、会場のフロアのほうから御意見をいただきまして意見交換をいたしました。

具体的なところでございますが、2ページでございます。まず、発表者からの御意見。まず1人目の御発表者ですけれども、1番のところですが、講義などをしてると省エネ、新エネという答えは多く出てくるけれども、原子力の視点が入っていないということを実感しているという御意見。それから、2番のところでは、国などから提供されている資料において、バランスを欠いた情報の提供がいまだなされているという面もあるという御意見。3番のところでは、原子力について知りたいと思っていない人が多いのではないかと御意見もございました。4番のところでは、情報が出たときに定性と定量の捉え方という言い方をされていまして、性質としては怖いものがあるかもしれないけれども、量でいうとどうなのか、そういうものを自分で冷静に判断できるような知識を育てていく、そういう御意見がございました。

それから、6番が2番目の御発表者ですけれども、化石燃料にも自然エネルギーにも原子力にも、もろもろについてもいろいろな問題がある中で、様々な不安要素がある中で、この方はまだ学生なのですけれども、これから技術者になる人間として、このデメリットの部分をいかに解決していくかというのはとてもやりがいのあることだという御意見を発表されました。

それから3番目の御発表者の方からは批判的な御意見をいただきまして、7番のところでは、日本やフランスのように原子力を推進している国でCO₂が増加しているじゃないかというご意見ですとか、9番のように、中越沖地震を挙げられまして、今後もこのようなトラブルで原子力発電所が止まらないという保証はなくて、安定供給性に欠けるのではないかと御意見がございました。それから、10番のところ、下のほうにございますけれども、再生可能エネルギーを最大限拡大するべきだという御意見もございました。

次のページ、4ページの11のところからは次の発表者の方です。原子力に関しては、安全・安心の部分で引っかかっていると。情報としてメリットもデメリットの情報をきちんと開示して理解する必要があるという御意見です。12番のところでは、これは発表者の方からの御提案ですけれども、日本全国のみんなが一斉に節電、省エネをしてどれぐらい電力消費が抑えられるかということを試してみたら見通しが立つのではないかと御意見がございました。13番のところでは、推進派、反対派、いろいろありますけれども、大半の人は自分のこととは思えない、よく分からないというような人で構成されている。そういった人たちをいかに巻き込んでいくかという御意見がございました。

最後の御発表者の方、14番からですけれども、原子力教育の話を挙げられました。15

番のところで、鹿児島では川内の原子力発電所があるんですけども、地元の大学や公共教育機関では原子力の専門の方がいらっしゃらないということで、そういう研究室なり講座がない。そういう次世代を教育するような教育を行うためには、その発電所が立地する地元にはそういう先生が勉強する場ですとか、原子力に関する講座が開設できるような雰囲気になってほしいという御意見がございました。

5 ページのところでございますが、御意見発表者と専門委員との意見交換の部分です。原子力発電が安定でないというような御意見に対して、ではより確実なエネルギーというのは何があるかというような意見で。先ほどの発表者の方は、再生可能エネルギーを挙げられたんですけども、少しこのページの下の方ですけども、専門委員からは、再生可能エネルギーが素晴らしいということは十分認めるけれども、全部が可能であるという誤解があるのではないかと。太陽や風というのは不安定だというようなことも挙げられていたところでございます。

それから、少し飛びまして、6 ページの真ん中から少し下のあたりですが。原子力発電のどんなところに不安を感じてそういう情報収集をされようとしていたか、情報の収集の仕方が分からないので不安がそのままになっているのか、どのような対処しているのかという質問を専門委員の方がされて、それに対して、不安を抱えながらもどうすればいいか分からないままという現状になっていると、そういう御回答がありました。

7 ページのところですが、真ん中の少し上のあたりですね。どうすれば原子力について知りたくなっていただけるかというような質問をいただいて、7 ページの下から3 番目の意見のところでございますが、自分の庭とか家の庭に地層処分をやるとなるとみんな勉強すると思うと。宮崎の例を挙げられてそういう意見がございました。

7 ページの一番下のところですが。この御意見発表者はいろいろ説明をされる際に、一般の主婦層や女性層に御説明する場合には、科学技術の発達が主婦の自由時間をどれくらい増やしたかというような、そういう関心を引くような話題を出したり。次のページのところでは、学生と話す場合には食の話から入って、トラブルが起こって、じゃあそれを回収するためにどれだけのエネルギーがかかっているかという身近な問題を取り上げるということで、そういう入口をいろいろ工夫しているという御意見がございました。

8 ページの（2）のところ、第2 部として、フロアとのディスカッションの部分です。前半では批判的な意見をされる方が何名か御発言されました。最初の意見では、危険な原子力発電に頼るのではなく、再生可能エネルギーを促進すべきという意見ですとか。この地域は

鹿児島なものですから九州電力を挙げられまして、九州電力からの情報は届いていないじゃないかというような御意見等がございました。8ページの一番下のところでは、原子力のことを挙げているわけですが、1日の電力の変動幅というのが非常にあって、それを火力でまかなっているからCO₂が減らないというような議論がないので誤解を受けるというような御意見。9ページのところにいきまして、昼間のピークを押さえる可能性としては太陽光は有効で、ただ昼間は有効だけれども、夜は使えないので全部太陽光というのはあり得ないという、そういう御意見もありました。

それから、9の上から2番目の○のところでは、西側の発電所では放射線により人が死ぬような事故はなかったと思うという御発言もありまして。この方個人としてはリスクが非常に少ない電力源だと思うというような意見もございました。それから、最後の○のところでは、専門委員のほうから、地域の懇談会というのは今回で最後であるけれどもそれに対する意見をということで、御意見発表者からそれぞれの御回答ございまして。一番最後のところですが、どういう形の会を作ってくれるのか専門委員としても楽しみにしているという御発言が思いました。

私からは以上でございます。

(近藤委員長) どうもありがとうございました。

ただいまのご報告に対して、何か御質問御意見ございましょうか。

(松田委員) 参加の感想を。パネリストの方たちはそれぞれ地域で活躍している方たちが多かったので、地域の方たちも日頃の考え方も反映させながらお話しされたところは良かったと思います。

そして、人数はそれほど大勢というわけではなかったのですが、会場の方とパネリストの方が東京から行かれた市民懇の委員の専門家の方々と丁寧に意見交換をして、お互いに本音で話し合っているという雰囲気がとても良かったです。鹿児島に行ったら良かったと思いました。

以上です。

(近藤委員長) はい。田中委員。

(田中委員長代理) 市民参加懇談会、原子力委員になってから何回か出て、今回が最後ですけれども。結局一番の問題は、関心を持っていただけないというところじゃないかと思うのです。今回も最初に出ていましたけれども、事故とかトラブルが起これば関心を持つだけでも、関心を持たないところにいくらいろいろ言っても、効果がない。そこで、どうやって

関心を持っていただくか、普通の状態では無関心。関心といってもいろいろな問題があって、放射線の影響、危険性に非常に関心があるとか、原子力発電そのものの効果について関心があるとか、原子力発電イコール放射線のリスクがあるということなどが考えられますけれども、とにかくどうやって関心を持たせるかということについて、これはかなり難しいテーマだなということだと思うんですね。

とにかく、今回で終わりですけれども、その辺をどうするかということで、こういったたぐいの活動を今後原子力委員会でどう進めるべきか、もう少し議論する必要があるんじゃないかと思います。

以上です。

(近藤委員長) はい。委員の指摘したところは非常に重要と思います。この会における発言がありましたように、自分のところに何かがあるとすれば大変な関心を持って一所懸命勉強するけれども、そうでなければ関心を持たないというのが正直な意見であり、世論の姿です。それを前提に、原子力委員会はどうしたらよいのか、我々は、原子力委員会について関心を持ってもらいたいのか、原子力発電等の取り組みに関心をもってもらいたいのか。原子力委員会に関心を持ってもらうことが義務とすれば、全国各地に原子力委員会の事務所でも作って、毎日放送し、紙を配り、会合をもちという取り組みをしなければならない。しかし、そうはなっていないので、そうではなく、原子力関係者に対して原子力に関して利害関係者として関心をもってもらえるように行動するべきという方針を提示するのが仕事なのだと理解するべきと考えています。

で、私どもとしては、私どもの決めた方針が目指すところを実現するべく取り組みがなされているかどうかを知る必要があるところ、勿論当事者からこんな活動をしました、こんなアンケート結果を得ていますとご報告をお聞かせ頂くわけですが、時には、直接現場の空気といったものを感得することもあるとよい。そこで、いわばアンテナショップとして、市民参加懇談会に年に2回ほどいわば点検をしていただいていたわけですが。今回もそのようにした結果として、田中委員はそのような印象をもったと。さて、それでどうするか。

私どもは、発電所の立地地域に対しては、発電所が自ら説明をする、勿論、これが国の政策によっていることを直接国から語ってほしいという要請があれば、国は出向くべきとも申し上げてきていますし、安全規制行政庁には行政判断の内容について、その利害関係者たる立地地域社会に説明するべきであると、また、学校教育においてもエネルギーについての多面的な理解が国民の常識の一部になるようにしてほしいと申し上げ、ご尽力をいただい

いるわけです。心を持ってもらうためのツールとは思ってなくて、いつも申し上げているように、これは。だから、行ってみて、これは参った全然関心をもっておられないやとなったら、本来関心を持っていただくために行動する役割を持っている人、例えばこの地であれば九州電力、あるいは安全行政について言えば保安院なりが、それぞれの責任の範囲で関心を持ってもらうための取り組みが不足しているのではと問いかけるべきなのですね。で、いわば行政なり事業者としてのリスク管理に係る利害関係者たる公衆との相互理解活動が不足しているという状況は原子力施設所在市町村以外の場所ではそういう結果が出てこないはずはないと考えられるところ、やはりそうかと、そういう意味では意外感がないわけですね。委員会としては、ここについては、学校教育の面で何とかするしかないのかなと思って、制度の整備をお願いしてきているのですが、制度があってもなかなか立地自治体を越えて利用希望が広まる状況にないわけですね。

(田中委員長代理) まさにそうだと思うんですね。今回教育のほうのカリキュラムで放射線の教育とかエネルギーの中での原子力の教育が始まるということは、もうこれは非常に大きな前進であって、こういうアンテナショップとしてというのもそれは何でも意義はあるんですけども、いろいろな効果を考えた場合、原子力委員会の全体の力量を考えたときに、今後どういう観点でやっていくかということを少し、教育のほうからやるのは、時間はかかっても一番いいんだと私も思います。

(松田委員) 今回この会が終わった後、3月9日(月)に川内の発電所を見学に参りまして、その所長さんたちと「市民参加懇談会in鹿児島」の感想を伺うことが出来ました。懇談会に御出席なさっていた方たちだったのですが、鹿児島でパネリストになられた御意見発表者の方たちとこれから連絡を取り合いながら、原子力発電所のあるこの地域が地域共生を進めていく場合に地域と今後どのようなコミュニケーションをとればいいのかというようなプログラムを今後企画したいとおっしゃっていました。関係者は、それぞれに顔の見える関係を築いていこうとしておられるという気もしました。

「情報が届かない」という発言が会場からありましたが、届かないという受身ではなくて、どうすれば届くかというところの話し合いもしていかなければと、パネリストの石窪さんや大迫さんたち女性の方たちは語っていらっしゃいました。会が終わった後の雑談ですけども。

(近藤委員長) 相互理解の重要性の認識を持っておられたということですね。

ほかに。それでは、事務局、そして田中、松田委員にはどうも御苦労さまでした。

この議題、これで終わります。

次は、その他議題、どうぞ。

(5) その他

(土橋参事官) その他議題、事務局のほうではございませんが、資料として政策評価部会の開催案内、それから研究開発専門部会の開催案内、それから政策評価部会のエネルギー利用のご意見を聴く会の募集の案内を資料7、8、9として配付してございます。

(近藤委員長) 各委員の方で何か。よろしゅうございますか。

それでは、次回予定を伺って。

(土橋参事官) 次回の第9回の原子力委員会定例会議ですが、来週3月10日、10時半から、場所はこの場所ではなくて、虎ノ門三井ビルの2階にございます原子力安全委員会の第1、第2会議室で行う予定でございます。

それから、今日は3月初めの定例会議でございますので、この後プレスの方々との懇談をしたいと思います。近藤委員長の部屋でやりたいと思いますので、プレス関係者の方は御参加をいただければと思います。

以上でございます。

(近藤委員長) それでは、終わらせていただきます。

ありがとうございました。

—了—